

2 両大会の基本理念

選手、スタッフ、ゲームズメーカー*、観客など、両大会に関わるすべての人々が最高のパフォーマンスを発揮し、誰もが自分のスタイルでスポーツを楽しみ共感し合える喜びを、佐賀から発信する大会。

来る平成35(2023)年、国民体育大会と全国障害者スポーツ大会が、昭和51(1976)年以来47年ぶりに佐賀県で開催されます。

佐賀県で開催する2巡目の大会に当たり、それぞれの大会に出場する選手・監督はもちろん、大会に関わるスタッフやゲームズメーカー、そして、大会を観戦する観客など、両大会に関わるすべての人たちが、それぞれの立場で最高のパフォーマンスを発揮し、それぞれ自分に合ったスポーツへの関わり方で楽しみ、共感し合う喜びを佐賀から発信することを、基本理念とします。

※ゲームズメーカー

2012年に開催されたロンドンオリンピック・パラリンピックにおけるボランティアは、「ゲームズメーカー」と呼ばれ、競技者や主催者と一緒に大会をつくりあげる存在でした。

佐賀県で開催する両大会に関わるボランティアや観客の皆さんも、「ゲームズメーカー」として競技者とともに大会をつくり楽しんでいただきたいと思います。

3 基本理念を実現するための取組の柱

取組の柱 1 佐賀の『デザイン』との融合

*「佐賀のデザイン」とは、佐賀県らしい手法や工夫、サービス。

両大会に、「佐賀県らしい手法や工夫、サービス」を取り入れ、特色ある大会となるよう取り組みます。

取組項目 ①

国民体育大会・全国障害者スポーツ大会を『佐賀県らしく』デザインする

平成13(2001)年から、両大会は同一都道府県内で開催されています。

それぞれの大会の歴史や開催目的に違いはありますが、両大会を通して、人々がお互いの多様性を認め合い、支え合う「共生社会」の理念を共有することが大切であると考えます。

このため、佐賀県で開催する両大会は、競技大会としての成功はもちろん、大会後も年齢、性別、障がいの有無に関係なく、誰もが、それぞれのスタイルで、スポーツを楽しむことができる環境が佐賀県に残るよう、取り組んでいきます。

そのために、可能な形で両大会の融合を図り、佐賀らしい手法やサービスで、大会をデザインします。

具体的な取組例

- ・ 両大会開催準備の同時進行
融合の理念のもと、両大会の開催準備を最初から同時進行で進めます。
- ・ 総合開閉会式や競技の合同開催などの検討
総合開閉会式や競技の合同開催などの可能性について、検討します。
- ・ 国民体育大会へのエキシビジョン競技の導入
国民体育大会の開催期間中に障がい者種目のエキシビジョンの実施を検討します。
など

